



2015. 1

INDEX

1. 畑ガイドツアー

- (1) 農場ピクニック参加者内訳
- (2) 参加者の声
- (3) 畑ガイドの育成
- (4) 情報発信

2. 食育事業「畑クラブ」

3. 協力農場

4. 地域との連携

5. スタッフ

6. 今後の展開



1(1)農場ピクニック参加者内訳

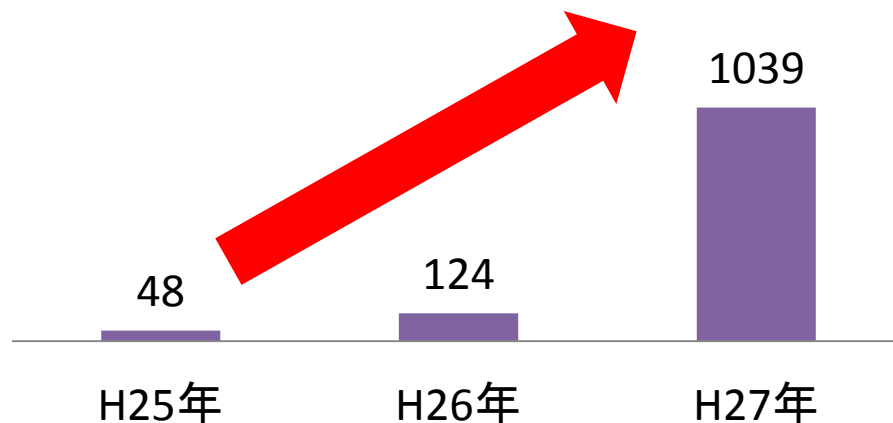
初年度は地元への周知、2年目は道内への発信、そして3年目の本年は全国展開ということで、当初の計画通りに集客を得ることができた。

食と農への関心の高まりを背景に、地域特性を活かした観光素材を求める旅行雑誌社、旅行代理店のニーズに沿った商品を提供できたことから、効果的なメディア露出が集客につながった。

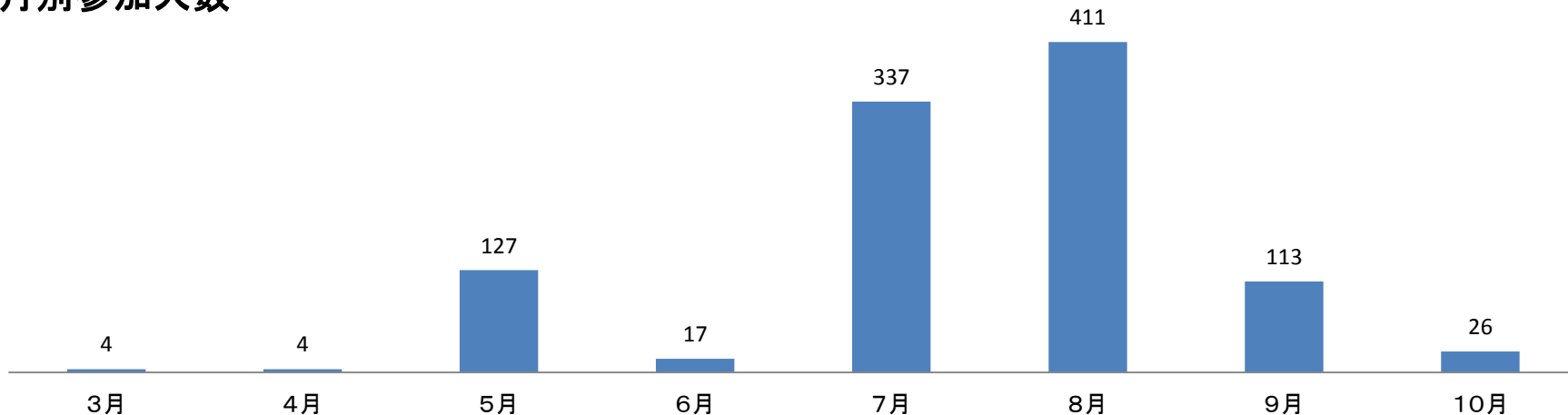
参加者の8割が夏休みの利用、そのほとんどがファミリー層だったことが、大きな特徴。約半数が関東からで、道内客は12%に留まった。(修学旅行1校含む)

来年度は夏休みは当然のこと、春秋の集客を伸ばす工夫が急務である。

参加者数の推移

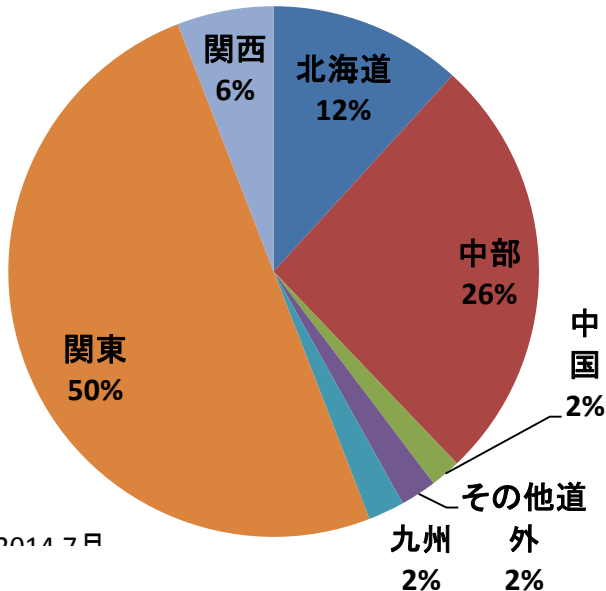


月別参加人数

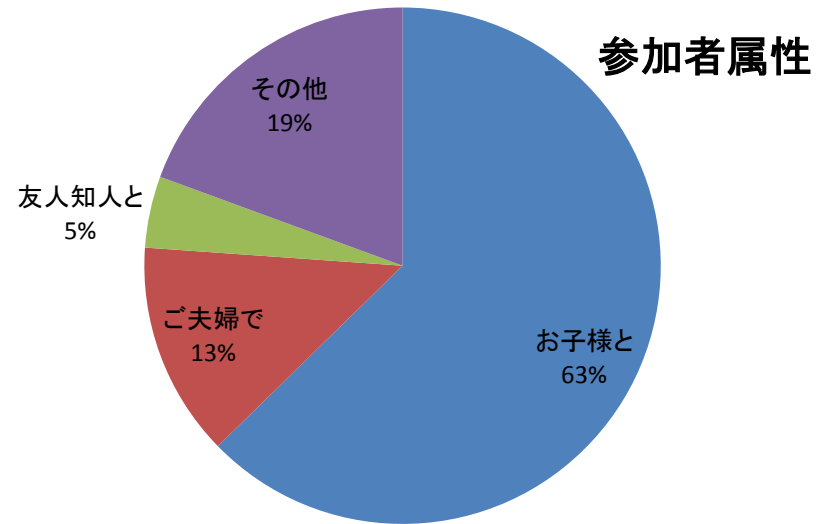


1(2)参加者の声

子連れで参加出来るのが嬉しい
景観やスケールの大きさに癒された
麦稈ロールが良かった
生産者にもあってみたい
農家の苦労や努力が解った
農薬の事なども知りたい
産直の農産物が買いたい、
業が身近になった
写真ポイントが良かった
生のトウモロコシが食べてみたかった
ゆったりした時間、ペースを合わせながらのガイドが良かった、
ガイドが優しくアットホームで良い
じゃがいも、トウモロコシ、お汁粉ランチが美味しかった



272/260-2014.7月



参加者属性

1(3)畑ガイドの養成

十勝ガイド、ライフコンシェルジュといった、これまで地域で取り組まれてきたガイド養成事業に参加していた方を中心に、H25年度帯広市より委託事業を受託し「畑ガイド」を要請した。そのメンバーが現在も継続し、12名の契約ガイドが活躍している。

うち10名が定年退職者層、5名(スタッフ含む)がUIターン
の30-40代女性という点が、これまでの取り組みにない新たな発想を生む原点となっている。



【研修の内容】

農業基礎研修	H26 15時間、	H27年10時間
伝え方講習	H26年 10時間	H27年 20時間
子ども対応講習	H26年 0時間	H27年 4時間
現地インターン	約10時間	

【待遇】

時給制

【畑ガイドの属性】

60-70代

元教諭4名、元農協職員1名、元メディア関係1名

農業関係 2名、その他2名

1(4)情報発信

畑ガイドツアーは、3年目の取り組みにも関わらず、農業と観光を新しい形で結んだ取り組みとして、非常に高い注目を頂いた。

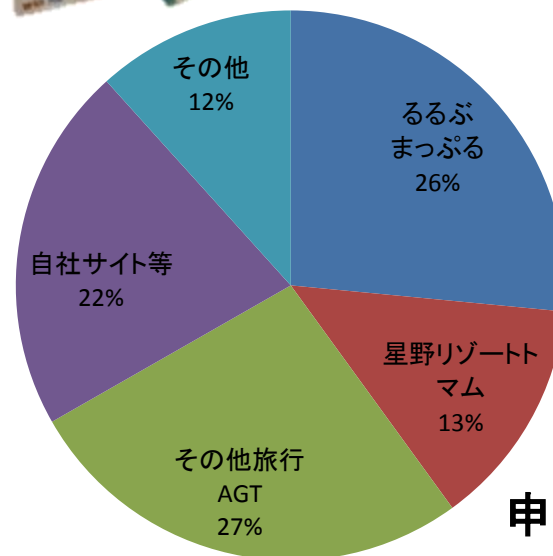
【主な取引先】

JALツアーズ、ANAセールス、星野リゾートマム、JR北海道、日本旅行北海道、近畿日本ツーリスト、宝島旅行社、十勝食糧自給推進協議会（JAおとふけ、JA木野、よつ葉等）、帯広調理師専門学校、ニトリパブリック、トヨタ（予定）

【主なメディア掲載】

あさいち、るるぶ十勝、まっふる北海道、北海道じゃらん、JAL機内誌・機内ビデオ、AIRDO機内誌、日本農業新聞、北海道新聞、十勝毎日新聞

【密着取材】STVどさんこワイド、NHK、HBC、UHB



申し込み経路

2. 食育事業「畑クラブ」

地元の子どもたちに、産業としての十勝農業を知って欲しいという思いで子育てサークルの活動として始まった企画が、地元企業のご協力の下、継続的な取り組みへとつながりました。

【体験イベント】

5月 菜の花のお花見

6月 小麦畑探検隊

9月 おっきな機械でじゃがいもほり

10月 お菓子の畑探検隊

1月 農家さんと豆あそび・豆ランチ

【出前授業】

大空小学校、栄小学校、明星小学校、花園小学校、川西小学校、愛国小学校、帯広盲学校、明星小学校星の子ランド、大空小学校おおぞらっこクラブ、明星小学校どんぐりクラス、つつじヶ丘小学校、若葉小学校

【出前畑クラブ 先生たちからの声】

- ・授業で作物も植えていたのでもっと深く子供たちに伝えたい
- ・総合学習で農業について学んでいるため
- ・十勝の農産物について、子どもたちに学んでほしい
- ・試食、体験、比較があり良かった
- ・言葉で話し合っただけで確かめられたのが良かった
- ・丁寧で良い・とても楽しく学んでいた
- ・体験活動があったので、とても喜んでいました
- ・子供たちも感心を持って参加していた
- ・十勝の子供たちに、とても良い事業
- ・このような出前授業を今後とも続けて行って欲しい
- ・普段出来ない体験を通じて、種類の理解やそれぞれの違いに気が付く事ができた
- ・とてもわかりやすい内容と体験。大人の私も初めて知ったこともあり楽しかった

【協賛企業】

アグリシステム(株)、(株)丸勝、(株)柳月、(株)山本忠信商店、(株)福原、菜種油生産組合、農業生産法人鎌田きのご(株)、日本甜菜製糖(株)



3. 協力農場

【農場ピクニック協力農場】

- 4-5月 共働学舎新得農場(新得町)
- 5-6月 佐藤農場(音更町)
- 6-8月 坂東農場(芽室町)
- 8-10月 おいで農場(幕別町)



【その他協力農場】

- 大野ファーム(芽室町)
- オークリーフ牧場(芽室町)
- 島部農場(芽室町)
- 自然菜園ふたば(芽室町)
- 大牧農場(音更町)
- 江崎農場(音更町)
- 津島農場(音更町)
- 竹中農場(音更町)
- 棚橋農園(音更町)
- 庄司農場(音更町)
- 折笠農場(幕別町)
- 小畑農園(帯広市)
- やぶ田FARM(帯広市)
- 池下農場(帯広市)
- とやま農場(帯広市)
- 児玉農場(帯広市)
- まんまる農園(帯広市)
- 愛二農場(帯広市)
- くさなぎ農園(帯広市9)
- 相馬農場(帯広市)
- 村瀬ファーム(鹿追町)
- 夢想農園(士幌町)
- ファームタキモト(清水町)
- 石橋農場(新得町)
- 源ファーム(大樹町)
- インカルシペ白樺(大樹町)
- 岡本農園(中札内村)
- 土蔵農場(本別町)
- 前田農産(本別町)

開業以来、協力農場の確保に困ったことがない。それは、これからの農業にとって、「伝える」ことがどれほど重要か意識する生産者が増えたことを表している。

左記は、これまでご協力頂いた生産者。これ以外に、約100軒の生産者が、協力を申し出ている状況である。

観光素材としての魅力に注目が集まっていることから、都市での需要も十分に見込むことができる。受入体制・仕組みを整備することにより、これらのギャップを埋め、より多くの作り手と食べ手を結んでいきたい。



4. 地域との連携

消費者交流を考える生産者団体にとって、企画運営は大きな課題である。

パルシステム産地交流事業の受け入れについては、参加者不足で不催行になった事業が、弊社の関わりによって、2年連続倍率5倍の応募者を集める人気プログラムに成長した。

産地の想いが強く、来訪者とのバランスが取れていない場合も多く見受けられ、今後もこのようなコーディネーターの存在は重要になると考えている。

また、ユニフォームのほか、長靴は道内メーカーより協賛提供いただき、PRに貢献している。



Beans field foudation
ユニフォームに採用



国際農機展出店
(JAしかおい青年部)



パルシステム産地交流事業
(JAおとふけ、JA木野、よつ葉乳業、マルハニチロ畜産、大牧農場)

5. スタッフ

主に30-4代女性スタッフが事務局の中心を担い、60-70代の契約ガイドがそれを支える構図。

その他、子どもたち向けの食育事業については、帯広畜産大学や大谷短期大学、帯広コア専門学校など、学生たちにも積極的に関わってもらうことで、次世代を担う若者の育成に貢献している。



定年退職者



大学生



Uターンの若者



子育て中の母親

6. 今後の課題と展開

1. 畑カフェの中止

防疫上の観点から、不特定多数の方にご来場いただく形は持続不可能と判断。

2. 農場ピクニック受入体制の検討

駐車場が遠く、結果的に畑に車を入れる事態になってしまった。今後、土の移動をしない仕組みで継続するには、駐車場の整備または人の導線(移動手段)を整えなければならない。

3. 家畜とのふれあい

家畜とのふれあいが、体験的に食べ物大切さや、命への感謝の気持ちを育むことに大きく貢献することがわかっているが、家畜防疫上の観点から、通常の生産農場でふれあいを行うことは困難である。これまで、一般の生産農場を案内することに特化してきたが、「観光」「教育」を主目的にした農場があるべきではと考え始めている。

4. 馬文化の保存

十勝は馬文化が残る国内でも有数の地域である。しかし、形として残っているのはばんえい競馬のみ。馬耕時代の農機具や知識や知恵が今であればまだ残されており、これを「教育農場」として存続させる方法がないか模索したい。

以上のことより、一般の生産農場を案内するガイドツアーと別に、疑似体験できる「教育農場」の開設について、本格的に検討する。(次頁参照・土地等全て未定)



ドイツ Dotten feld hoff 教育農場にて

いかに「きます」ランド



家畜
エリア
道産子・ヒツジ・ヤギ・ウサギ

堆肥場

住
休職

住
休職
木工の家
木のかけらで
自由に
工作

ホホ
エリア

十勝の畑
エリア
輪作や畝作り
休職

小麦

とうもろこし

菜種

豆

バスを使った
ブライワカフェ

ツリーハウス

野鳥や動物
の住み家

畑のレストラン

食
休職

森の
保育園

発電用の
水車

甘
暮らし
エリア

トマトハウス

摘みとり
エリア

サラダ畑

ピクニック
できる

お母さんと
ピクニック
お弁当
おやつ
お茶

十勝の
山野草

シェアオフィス

商店街
森のパサージュ
お弁当屋、カフェ
など日々の
食事に
関わる
雑貨も販売

シェアオフィス
・カフェやパン屋も
併設
・畑と子どもたちを
つなぐための
仕事ができる

駐車スペース

2階は
ゲストハウス

ドーナツ
屋の下

ファーマーズ
マーケット